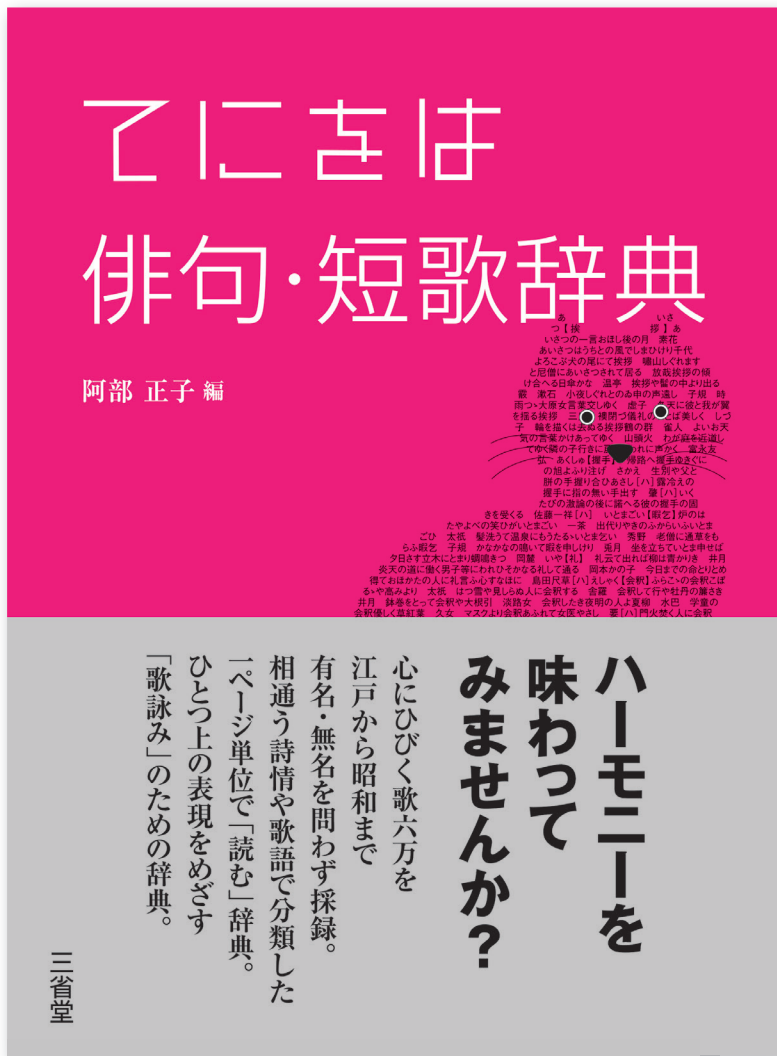


# 好評の『てにをは辞典シリーズ』第二弾！

約60,000の俳句・短歌が

キーワードで引けて、比べて味わえる。

詩心を刺激する日本語表現辞典。



## てにをは俳句・短歌辞典

阿部正子 [編]

B6判 1,120ページ 定価(3,200円+税) ISBN 978-4-385-13642-4

- 相通う詩情や歌語で分類した1ページ単位で「読む」辞典。かつ、キーワードで引ける、ひとつ上の表現をめざす「歌詠み」のための表現辞典。現代語見出しで、引きやすく、初心者にも優しいふりがな付き。
- 心にひびく歌60,000を江戸から昭和まで、有名・無名を問わず採録。同じテーマの歌が一堂に並ぶので、江戸と現代を一緒に、また俳句と短歌を一緒に読み比べることができ、贅沢な鑑賞体験が楽しめる。
- 無名のハンセン病患者の歌や、昭和人には懐かしい暮らしの歌も収録。今まで知らなかった作者や新鮮な表現と出逢える、「読みごたえのある辞典」。

### 【編者紹介】

阿部正子 (あべ・まさこ、筆名・小暮正子)

1951年生まれ。編集者。農薬やがん治療・障がい者・薬害エイズ・誕生死等の単行本や『てにをは辞典』『敬語のお辞典』『十七季』『五七語辞典』『ことばの花』『夢みる昭和語』等を編集(以上、三省堂)。共編で佛淵健悟・小暮正子編『俳句・短歌・川柳と共に味わう 猫の国語辞典』(三省堂)。

三省堂

# 子育てこそだ

## おきてくる(こ)起きて来る子

永き夜や起きた子をみる忍び声 嘯山こ  
 短夜を乳呑児のそり起居おきたる 四辻  
 風鈴に起きて寝るのよき子かな 淡路女  
 赤ん坊生れて朝へ起きてきた子 一石路  
 朝寒に起きて寝るのよき子かな 久女  
 白木権ちり夢より起きて来し子かな 馬相  
 つと起し児が金魚の死骸つかみたり 山頭火  
 うまいより醒めて話をしはじめむが  
 子等見つつ心ゆらぐも 斎藤茂吉  
 朝風や兎さか熊のやうにして起き上る子  
 のつけひもを吹く 与謝野晶子  
 さ夜なかに茶をいれて居るしづこころ寝  
 よと思ふに起きる子かも 釈道空  
**おしやべりする(こ)お喋りする子**  
 入学した子の能弁のうをきいてをり 碧梧桐  
 亡き児あはれいづも素直に寝さめては眼ま  
 こつぷらにひとり語りし 古泉千穂  
 をさな子は十筆くしのはかまむきながら学  
 校の事をはなしかけたり 岡麓  
 泥足を洗はせながら捕りにがしし魚のふ  
 とさを子は語るなり 中島哀浪  
 子どもらのはれ言ここそうれしけれ寂し  
 き時に我は笑ふも 島木赤彦  
**こにみせる(子)に見せる**  
 初雪やふところ子にも見する母 杉風こ  
 故里るさの小庭の華みれ子に見せむ 久女  
 木戸さしに出て子の螢拾ひけり 木歩  
 たもとから独楽ま出して児こに廻して見せ

のかどに寂しくし聞きゆ  
 すかされて泣きとまりし幼子おきき母の  
 顔見て又しぐれけり 石樽千亦  
 泣きやまぬ子をすかし兼ねわが見やる雁来  
 紅がらうはいや紅あきかも 岡本かの子  
 夜もすがら負おみ抱いだき泣ける子を守も  
 りぬる人と朝寝す吾れも 宇津野研  
**だたをこねる(こ)駄々をこねる子**  
 あのをとつてくれろと泣き子哉 一茶  
 負わつた子がだ、をこねるや田草取 一茶  
 七草をた、きたがりて泣子かな 俊似こ  
 太箸をばを児のほしがるや膝のうへ 井月  
 もの言へぬいやいやして春日中 しづ子  
 母としか湯には入らずと子は云へりひとり  
 ひたれり梅の豊み見て 北原白秋  
 憤る裸の子なれ地面にた寝て陽にはまぶ

## このきげん(子)の機嫌

はいくとも馬牽かかせて子の機嫌 木髪こ  
 うどり子この機嫌直りぬ宵なづな 古友こ  
 みどひすや嬉しき和子この朝機嫌 多少こ  
 熱下かりて蜜柑むく子の機嫌よく 久女  
 肌寒や妻の機嫌子の機嫌 草城  
 風鈴や一泣きをきしたる児の機嫌 淡路女  
 ちんぼこに西瓜の牽しぐたらして子の機嫌  
 裸木  
 水中花病む子の機嫌なほりけり 竹声こ  
 何か云ひ抛ほうり出だせし人形を乳のみ了お  
 へてまた抱きにくく 小名木綱夫  
**このてをひく(子)の手を引く**  
 金魚買つて子の手を曳いて帰りけり 淡路女  
 をさなこの手をとり歩む道のへにみそさざ  
 い飛び日は暮れむとす 古泉千穂  
 父母ちんぼに手をは引かれてうれしきか此の  
 子は足をあげつ、ぞゆく 太田水穂  
**こをあそぼせる(子)を遊ばせる**  
 麦秋や子供遊ばす舟の中 泊月  
 落葉掻かき児は日溜むをりに遊ばせて 放哉  
 ず、だま冷えく溜む児が遊べり 泊雲  
 雨の日のこととあそぶ太鼓を打ち太鼓こ  
 ろばし 一碧楼  
 鶴を折る間に眠る児や宵の春 放哉  
 豆を時まく諏訪さまに午を遊ばせて 米子こ  
 輝しぐれしつかにかよふ昼蘭なけて子と組  
 み立つる名古屋屋の型 北原白秋  
 線路こえてわが稚児をををあそぼしむをさ

わめく子をつくづくと見る 岡本かの子  
 夜もすがら児は叫び泣くさんざんに母が生  
 命の音を喚ぶと泣き泣く 今井邦子  
**ねびまざる**  
 掃帚子やねびまざりたる話振をせり 草城  
 紅梅を折りて挿はまればねびまざる 虚子  
 彼方あちにて父はねねと人に告ぐ智恵の  
 覚めゆく児もつあはれ 小名木綱夫  
**はつこ(這う子)**  
 鳥打はなうや子が這ひ歩くし原 一茶  
 小こむしろに這習はなう子や花の蔭 多代こ  
 板の間に子の這はいか、る西瓜哉 使帆こ  
 麦の秋ほこりの中を這ふ子かな 菊雅こ  
 ひと向きに這ふ子おもふや笹ちまき 龍之介  
 尻立てて這ふ子おもふや笹ちまき 龍之介  
 這うてゆく児のさきにある手毬まかな 泊月

## な兒ときき坂きほひくたる

朝庭をきれいに掃きぬはだして歩みそめ  
 たる子をあそぼしむ 中島哀浪  
 日ぐれまで児を遊ばする山かげの紫雲英  
 田げ貸だのうへ月淡うあり 中村憲吉  
 すべきことある縁えに 窪田空穂  
 ぶさくさしと入る縁えに 窪田空穂  
 この春は何か老いぬく吾がころ末の這  
 ふ子をあそぼせてをり 宇津野研  
 わが清に友を与へん犬の子と鶏と鳩と七面  
 鳥と 水野葉舟  
 夜が来れば妻は勤めにいでてゆきわは子  
 のため積木はじめ 横山石鳥こ  
**こをあやす(子)をあやす**  
 転んだ子ちんぼい御宝おんちんぼ 江戸雑俳  
 居ないくばアと顔出す団扇うち哉 麦人  
 秋の空高いくををする子哉 麦人  
 むつかれば海に抱きゆきてほうらく 枋童  
 かあゆてならぬ子を空たかくさしあげる 山頭火  
 声だけで泣く子をあやす農繁期 欣声こ  
 さらばとてむづかる吾子をあやしつづく 明石海人  
**こをすかす(子)を賺す**  
 あれさけと鳴子をならして子守哉 諷竹こ  
 三月月や泣く子をすかす縁えの端は 湖峯こ  
 手にあけて泣く子にみせる海鼠を 多代こ  
 髪結はぬ児をすかすちまきかな 可有こ  
 泣く児きにあれの、様上蝙蝠うりよ、小波  
 あと追ひて泣く子を賺す野分かな 万太郎  
 いきどほり泣く子をすかす妻のこゑゆふべ

みせにくる(見せ)に来る子  
 ころんだを児の見せに来る寒さ哉 多代こ  
 百合を得て騙される裸形童子はたかしかな 古郷  
 秋燕しんを掌てに拾ひ来ぬ蟬が子は風作  
 啼きひく蟬を裸子より受けとる 多佳子  
 支給されし手花火ではな十とおほど見せに吾  
 子也 春水こ  
 華なやかに縞ある魚を手にもちて秋の磯よ  
 り走はせくる童 与謝野晶子  
 鳴く蟬を手握たぎりもちてその頭をりをり  
 見つつ童ちま走はせ来る 窪田空穂  
**むすがる(こ)むすがる子**  
 子供むづがる秋の夕暮 琴安こ  
 縫ふ肩をゆすりてすねる子豊さかな 久女  
 病める児のむづがる朝の食卓よ旅をおもひ

『てにをは辞典』 小内一 [編] 定価(本体3,800円+税) B6判 1,824頁 ISBN 978-4-385-13646-2

『てにをは連想表現辞典』 小内一 [編] 定価(本体 3,200円+税) B6判 1,312頁 ISBN 978-4-385-13641-7

三省堂 〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411(編集)・9412(営業) <https://www.sanseido.co.jp/>

注文書	NEW てにをは俳句・短歌辞典	てにをは辞典	てにをは連想表現辞典	貴店名・帖合先
	ISBN 978-4-385-13642-4 定価(本体3,200円+税)	ISBN 978-4-385-13646-2 定価(本体3,800円+税)	ISBN 978-4-385-13641-7 定価(本体 3,200円+税)	
	お名前	お電話番号		
ご住所 〒				

※必要事項をご記入のうえ、最寄りの書店へお申し込み下さい。お客様の個人情報は本書のご注文のみに利用し、目的外の利用はいたしません。

